

クラス	TU314	担当教員	橋本洋治
テーマ	子どもを中心に大人も育ち合う園・学校づくり		
著書・論文 研究課題等	<p>○「戦後教育改革期のPTAにおける教育要求共有化の可能性と限界に関する事例研究」『中部教育学会紀要』第3号、1-15頁、2003年。</p> <p>○「宮城県におけるプロジェクト・アドベンチャーの取り組みと課題—子どもの自己肯定意識の向上に着目して—」『鳴門教育大学研究紀要』（教育科学編）第22巻、37-50頁、2007年、共著。</p> <p>○「学校教育への保護者参加の効果と参加意欲に関する研究」『日本福祉大学研究紀要—現代と文化』第140号、21-31頁、2020年、共著。</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：園・学校づくり、保育者・教師の育ち、保護者・住民参加、生活体験、自然			
<p>【目的・内容など】</p> <p>子どもを中心においた効果的な取り組みを展開している園（保育園・幼稚園など）や学校は、一人のスーパーマン的な保育者・教師の存在によって成立しているわけではありません。保育者・教師集団、保護者や住民の集団としての育ちと力量の総和とともにあるということをいろんな角度から考えていきましょう。3年次には、次年度における卒業論文の作成を視野に入れて、各自で研究課題及び方法などを決定し、レポートにまとめることを目標とします。研究課題については、「子どもを中心に大人も育ち合う園・学校づくり」をゼミのテーマとしてはいますが、関連する文献・資料の学習や園や学校現場、冒険遊び場（プレイパーク）や「森のようちえん」での体験などを通して各自の問題意識を深化、発展させ、個別の具体的な課題設定へとつなげていきたいと考えています。4年時には、3年次に学習・研究の結果としてまとめた各自のレポートをさらに発展させ、各種調査などを通じて卒業論文として仕上げることを目標とします。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>（3年次）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもと大人が集う活動現場での体験 ② 卒業論文への取り組み方 ③ 問題意識の整理及び結果の発表 ④ 先行研究、資料の探索・学習及び結果の発表 ⑤ 研究課題及び研究方法の検討 ⑥ レポートの執筆作業及び発表 <p>（4年次）</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦ 中間発表会 ⑧ 中間発表会を踏まえた問題点の整理と解決に向けた作業 ⑨ 卒業論文の執筆作業 ⑩ 卒業論文発表会 			
担当教員からのメッセージ			
<p>子どもや大人の育ちといっても、今のご時世なかなかそのような状況に出会う機会は少ないように思いますがいかがでしょうか。本ゼミでは、そこにアプローチする一環として、特に3年次、子どもと大人が集い活動を続けている「森のようちえん」で実際にその運営に関わる体験をしてもらう予定（時間割上のゼミ時間だけでなく、月一回土曜日や日曜日などにも活動あり）です。それなりに「忙しい」ですが、主体的に取り組むことができればそれは苦にならないですよ。</p> <p>保育、そして学校教育に興味のあるみなさんが集って学び合う形のゼミが理想です。もちろん、卒業論文はそれぞれの領域で探究してもらって問題ありません。ただ、ゼミの仲間との交流によって、保育者を目指しているみなさんには、卒園した子ども達が通う小学校などのことについても気にしてほしいな！教師を目指しているみなさんには、入学してきた子ども達が通ってきた保育所や幼稚園などのことについても気にしてほしいな！と考えています。もちろん、他の進路を目指しているみなさんも学ぶ意欲があれば大歓迎です。</p> <p>とにかく、「学ぶ」「集う」「夢を持つ」喜びを体験して、充実感いっぱい卒業してほしいのです。そのために最大限のお手伝いをします。まだ取り組みたいテーマが明確でない方も多いと思います。課題などもたくさんあってとても大変だとは思いますが、いっしょに探してみませんか。</p> <p>※ 本ゼミを希望する方は、必ずエントリーの前に面談に来て下さいね。</p>			